

JAUW 京都支部  
2019年新年会

2019年1月26日  
ホテル日航プリンセス京都

雪がちらつく寒い日となったが16名の会員が集い嬉しい幕開けとなった。

松田支部長挨拶（要約）

懐かしい顔もみえ、嬉しい限り。今年はいよいよ全国総会。豪華なゲスト陣やアンケートの実施による意見交換、研修旅行等、会員の皆様のご協力に感謝している。当日は全会員が何らかの形で関わり、良い会になればと思う。

先日参加した新春のつどいで、奨学生の選考基準に「今後世の中の為に働いていく姿勢」も追加されたと聞き、様々な職業に就いていてもそれぞれにプロ意識を持ち、隣の人から大きくは世の中の為に働き掛けが出来、必要があれば助け合える大学女性協会を大切にしていきたいと感じた。

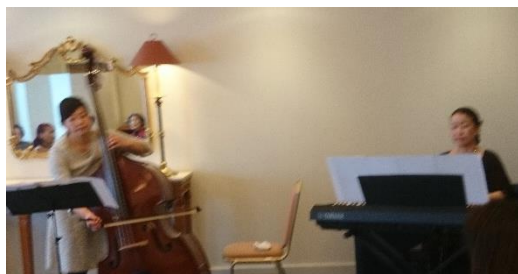
目まぐるしく変わっていく世の中だからこそ、皆さまと共に暖かく、かつ強固な仲間の繋がりを持っていきたい。



挨拶の後はコントラバスの独奏。木村会員と伴奏者の谷川秀美さんの演奏が披露された。

曲目

エリック・サティー : ジュ・トゥ・ヴ  
宮城道雄 : 春の海  
ジョバンニ・ボッテジーニ : エレジー



解説

ジュ・トゥ・ヴ

フランスの作曲家、エリック・サティの代表曲の1つ。音楽界の異端児と称された彼は数多くの秀逸作品を世に送り出しており、ドビュッシーやラヴェルなどの大作曲家も自身への影響を公言している。

今回演奏された「ジュ・トゥ・ヴ」は1900年に当時の人気シャンソン歌手、ポーレット・ダルティの為に書かれた。曲調は華やかで親しみやすい一方、歌詞は非常に濃厚で情熱的な

恋の歌である。

### 春の海

言わずと知れた日本を代表する箏曲であり、迎春には欠かすことの出来ない曲となっている。

宮城は7歳で視力を失ったが、これが転機となり音楽の道を志した。若くして頭角を現し、のちに邦楽、洋楽の融合による新たな音楽創造を目的とした「新日本音楽」の活動の中心を担い、日本音楽界に多くの影響を与えた。

春の海は1929年に作曲された。モチーフとして、自身が上京する際に船上から見た瀬戸内海を描いている。この曲はヴァイオリニストであるルネ・シュメーの編曲した琴とヴァイオリンの2重奏の成功と共に国内外の人々に認知される事となった。

### エレジー

ジョバンニ・ボッテジーニは19世紀初頭のイタリアのコントラバス奏者。他にも作曲家、指揮者の顔を持つマルチな才能の持ち主であった。特にコントラバスに関してはその超越した技巧から「コントラバス界のバグナーニ」の異名を持つ。指揮者としてはG.ヴェルディ作曲のアイダ初演を指揮した事で知られている。

エレジーは情緒豊かなメロディーが心地よく、多数のコントラバス奏者が演奏し彼の作品の中で最も愛されている曲の1つである。

インフルエンザで叶わなかった昨年の新年会から1年。ようやく実現した珍しいコントラバスのソロと美しいピアノの旋律を楽しんだ。

その後は美味しい料理と楽しい話に花が咲き、後半は全員にマイクが回り、近況や全国総会の進捗などそれぞれ報告しあった。



最後はピアノとコントラバスの伴奏に合わせ、「花は咲く」と「花」の2曲を歌い、今年も元気に過ごしましょうと誓い合った。